

1. 評価

評価の概要

宇部工業高等専門学校自己点検表基準1から基準10までの点検項目について、実施状況（各部署による自己点検結果）を「S：特に優れている A：良好である B：概ね良好である C：不十分である」の4段階で評価した。

各基準の自己点検に対する評価の概要を以下に示す。

**（基準1）教育の内部質保証システム**

- ・良好と判断する。
- ・「宇部工業高等専門学校における自己点検・評価に関する基本方針」に基づき、令和4年度の自己点検・評価を実施し、令和5年6月に本校Webサイトにて令和4年度自己点検・評価結果を公表した。
- ・3つの方針については、宇部高専の教育に関するアンケート（令和4年度実施）の回答結果も踏まえ、教務委員会・専攻科委員会で審議し、適切であると判断した。

**（基準2）教育組織及び教員・教育支援者等**

- ・良好と判断する。
  - ・教育方法に関して、4月・10月に教員FDを実施し、アンケート結果をもとにアントレプレナーシップ教育の導入効果について検討を行っている。
  - ・なお、以下の点について、「S：特に優れている」と評価した。
- 学科、専攻の構成について、高度化推進に向けて改組について検討した。

**（基準3）学習環境及び学生支援等**

- ・良好と判断する。
  - ・なお、以下の点について、「S：特に優れている」と評価した。
- 実習工場にある溶接機8台のうち、老朽化し修理対応できない2台分の更新を行った。溶接不良の発生が低減され学生の早い上達が見込まれると同時に、人体への電撃の危険度が軽減され、教育環境が改善された。
- ICT環境のセキュリティ管理体制について、状況に応じて適宜会議を開催し、セキュリティについて検討を行い、運用している。
- 障害のある学生に対して面談を実施するとともに、入学時に提出する健康調査票に記載のあった学生や出身中学校から障害に関して連絡のあった学生にも修学支援に関する説明を行った。必要に応じて、保護者に対しても面談を実施した。また、オープンキャンパスではプライバシーに配慮した特別ブースを設けて参加者の個別相談に対応し、入学後の修学支援実施の流れを説明した。
- 教育コーディネーター1名が対応した学生のキャリア相談件数（4～3月）は117件（実数55名）であった。他に卒業生がUターンシステムを利用し相談するケースもある。キャリア支援室の利用状況を数値化し各学科へ随時発信したり、採用試験に係る資料提供を適時・適切に行う等、コロナ禍を経て大きく変化する就活状況への対応を進めたことにより早期の採用内定獲得に寄与することができた。
- 修学支援室において対象学生のウォッチリストを作成するとともに、個人情報に留意しながら当該リストを活用し、運営委員会や前期・後期始めの各学科会議訪問等で情報共有を図り、学内で連携して学生の支援や見守りを行った。今年度からはリストをOneDriveにて学生支援センター員や学生課と共有し、支援体制を強化した。また、組織的な修学支援、連携体制を構築するため、学生支援のプロセスに関する申し合わせを整備し、支援のプロセスを明確化した。
- 学生寮では、週に1回程度、低学年生を対象とした勉強会を実施した。全19回行い、1回当たり90分で寮生7～9名が講師として指導した。
- 第1回いじめ対策委員会で委員会の役割及びいじめ防止プログラムについて委員間における認識を共有した。学生間トラブル事案発生時には学生支援センターと連携して情報の把握を行い、委員会には学級担任が陪席して学校としての当該学生への関わり方をその都度審議している。第7回いじめ対策委員会でいじめ基本計画、早期発見・事案対処マニュアルを検証し問題がないことを確認した。また、いじめ防止プログラムを検証し、次年度に向けてより効果的なスケジュールに改善して体制の充実を図った。

**（基準4）財務基盤及び管理運営**

- ・良好と判断する。
  - ・なお、以下の点について、「S：特に優れている」と評価した。
- 5月及び10月に予算委員会を開催し、戦略的かつ計画的な予算管理を目的とした配分を行った。また、光熱水料の高騰などによる厳しい財政状況をふまえ、今年度は、現行予算方針の抜本的な見直しを図るべく、中堅・若手教職員で構成するWGを設置し、今後の予算方針、増収及び支出削減を検討した。WGからの答申をもとに、予算委員会で新たな予算方針を検討している。

**（基準5）準学士課程の教育課程・教育方法**

- ・良好と判断する。
  - ・なお、以下の点について、「S：特に優れている」と評価した。
- 数理・データサイエンス・AI（応用基礎）申請のためにカリキュラムポリシーの点検を行った。
- アントレプレナーシップ教育の導入を推進し、プロジェクト学習に7つアントレ課題を設定し実践した。さらに、宇部市高校生ビジネスプランコンテストに3グループがエントリーし、最優秀賞と特別賞を受賞した。10月17日に教員向けアントレプレナーシップの教育FDを開催し、教員の理解深めた。次年度以降、アントレプレナーシップ教育を拡充する計画を策定している。グローバルエンジニア育成事業における英語による授業を実施した。地域教育において小中学校への出前授業、地域課題解決の取り組みを行った。

**(基準6) 準学士課程の学生の受け入れ**

- ・良好と判断する。
- ・推薦入試合格者の入学後の成績及び推薦不合格者の学力入試合格率を分析し、令和6年度実施推薦入試の枠を4割から5割に増員することを決定した。

**(基準7) 準学士課程の学習・教育の成果**

- ・良好と判断する。
- ・本年度の就職率及び進学率は、共に100%と高い就職率・進学率を維持しており、本校の学習・教育の成果が認められる。

**(基準8) 専攻科課程の教育活動**

- ・良好と判断する。
- ・本年度の就職率及び進学率は、共に100%と高い就職率・進学率を維持しており、本校の学習・教育の成果が認められる。
- ・なお、以下の点について、「S：特に優れている」と評価した。

○準学士課程からの連携・発展を盛り込んだ新カリキュラムの運用を今年度から開始した。第13回専攻科委員会において1年生に対して行ったアンケート結果を各専攻に示した。

**(基準9) 研究活動の状況**

- ・良好と判断する。
- ・本校の目的・方針に沿った研究活動を実施しており、これらの成果を地域共同テクノセンターNews & Reportに集約し、公表している。

**(基準10) 地域貢献活動等の状況**

- ・良好と判断する。
- ・本校の目的・方針に沿った地域貢献活動を実施しており、これらの成果を地域共同テクノセンターNews & Reportに集約し、公表している。
- ・なお、以下の点について、「S：特に優れている」と評価した。

○U-16プロコン山口大会及びそれに伴う事前講習会を実施し、参加者（34名→50名）及び協賛企業（9社→21社）が増加した。また、テクノカフェの実施回数（1回→2回）を増やした。

令和5年度宇部工業高等専門学校自己点検・評価

S：特に優れている A：良好である B：概ね良好である C：不十分である

点検項目	実施計画	実施状況	評価
<b>基準1 教育の内部質保証システム</b>			
<b>【内部質保証】</b>			
1-1 自己点検・評価の方針は関係法令に適合しているか。	自己点検・評価の方針が関係法令に適合しているか確認する。	自己点検・評価の方針が関係法令に適合していることを確認した。	A
1-2 自己点検・評価の体制（委員会等）に不備はないか。	委員会等の構成を確認する。	適切な体制となっていることを確認した。	A
1-3 自己点検・評価の基準や項目は適切であるか。	学校教育法第109条に沿った自己点検・評価の基準及び項目となっているか点検する。	適切であることを確認した。	A
<b>【自己点検・評価の実施】</b>			
1-4 文書管理規則に従い、資料は適切に管理・保管されているか。	文書管理規則に従い、適切に管理・保管する。	文書管理規則に従い、各部署において適切に管理・保管している。	A
1-5 自己点検・評価を定期的実施し、その結果を公表しているか。	自己点検・評価を実施し、公表する。	令和4年度自己点検・評価結果を6月にHPにて公開した。	A
<b>【学内意見聴取】</b>			
1-6 自己点検・評価は教員の意見を反映しているか。	教員への意見聴取を実施し、自己点検・評価に検討・反映する。	授業改善アンケート報告書兼授業改善計画書及び職務上の活動に関する自己申告書を評価結果に反映した。	A
1-7 自己点検・評価は事務職員の意見を反映しているか。	事務職員への意見聴取を実施し、自己点検・評価に検討・反映する。	各部署の点検結果を評価結果に反映した。	A
1-8 自己点検・評価は技術職員の意見を反映しているか。	技術職員への意見聴取を実施し、自己点検・評価に検討・反映する。	実験室・演習室の整備状況等の評価結果を反映した。	A
1-9 自己点検・評価は学生の意見を反映しているか。	学生への意見聴取を実施し、自己点検・評価に検討・反映する。	学生に対する各種アンケートの調査結果を評価結果に反映した。	A
1-10 自己点検・評価は学生の授業評価の結果を踏まえて行っているか。	学生の授業評価の結果を自己点検・評価に検討・反映する。	授業改善アンケートの調査結果を評価結果に反映した。	A
1-11 自己点検・評価は学生の教育・学習の達成度を踏まえて行っているか。	学生の教育・学習の達成度を自己点検・評価に検討・反映する。	卒業・修了時アンケートの調査結果を評価結果に反映した。	A
1-12 自己点検・評価は学生の学習環境を踏まえて行っているか。	本校の教育に関するアンケートを実施し、自己点検・評価に検討・反映する。	卒業・修了時アンケートの集計結果を評価結果に反映した。	A
1-13 自己点検・評価は学生の満足度を踏まえて行っているか。	学生の満足度を自己点検・評価に検討・反映する。	卒業・修了時アンケート及び授業改善アンケートの調査結果を評価結果に反映した。	A
<b>【学外意見聴取】</b>			
1-14 自己点検・評価に際し、保護者の意見を反映しているか。	保護者への意見聴取を実施し、自己点検・評価に検討・反映する。	評価結果に反映した。	A
1-15 自己点検・評価に際し、卒業生の意見を反映しているか。	次回は令和9年度に実施予定である。	現在5年に一度行っているアンケートの周期を3年に縮めることを検討した。	A
1-16 自己点検・評価に際し、就職先企業の意見を反映しているか。	次回は令和9年度に実施予定である。	現在5年に一度行っているアンケートの周期を3年に縮めることを検討した。	A

S：特に優れている A：良好である B：概ね良好である C：不十分である

点検項目	実施計画	実施状況	評価
1-17 自己点検・評価に際し、進学先教育機関の意見を反映しているか。	進学先教育機関から意見を収集・検討し、自己点検・評価に反映できる仕組みを整備する。	現在5年に一度行っているアンケートの周期を3年に縮めることを検討した。	A
1-18 自己点検・評価は卒業生・修了生の学習成果の効果を踏まえて行っているか。	次回は令和9年度に実施予定である。	現在5年に一度行っているアンケートの周期を3年に縮めることを検討した。	A
1-19 自己点検・評価は就職先・進学先における学習成果の効果を踏まえて行っているか。	本校の教育に関するアンケートを実施し、自己点検・評価に検討・反映する。	本校の教育に関するアンケートを実施し、評価結果に反映した。	A
1-20 自己点検・評価結果を改善に結び付ける体制となっているか。	各委員会が自己点検・評価結果を改善に結び付けることができる体制となっているか確認する。各部署の改善の取り組みを集約し、報告する。	各委員会が自己点検・評価結果を改善に結び付けることができる体制となっていることを確認した。	A
1-21 前回機関別認証評価における「改善を要する点」に対する取り組みを継続しているか。	令和4年度機関別認証評価における「改善を要する点」に対する取り組みを継続する。	令和4年度自己点検・評価結果を6月にHPにて公開した。また、試験における同一出題の防止、シラバスに沿った評価の徹底について、継続して各学科で取り組んでいる。	A
1-22 運営諮問会議における指摘・コメントに対する対応を行っているか。	運営諮問会議において意見を聴取し、その課題に対する改善を行う。	ハラスメントや多様性への配慮について、自己点検項目を追加するか、検討した。	A
<b>【3つの方針】</b>			
1-23 学習・教育目標は適切であるか。	学習・教育目標は適切であるか議論する。また法令やガイドラインの改正等があった場合には適切に対応する。	本校の教育に関するアンケートの回答結果も踏まえて、教務委員会・専攻科委員会で審議し、適切であると判断した。 機能強化事業の展開に合わせ改善することとした。	A
1-24 ディプロマポリシー（DP）は適切であるか。	DPが適切であるか議論する。また法令やガイドラインの改正等があった場合には適切に対応する。	本校の教育に関するアンケートの回答結果も踏まえて、教務委員会・専攻科委員会で審議し、適切であると判断した。 機能強化事業の展開に合わせ改善することとした。	A
1-25 カリキュラムポリシー（CP）は適切であるか。	CPが適切であるか議論する。また法令やガイドラインの改正等があった場合には適切に対応する。	本校の教育に関するアンケートの回答結果も踏まえて、教務委員会・専攻科委員会で審議し、適切であると判断した。 機能強化事業の展開に合わせ改善することとした。	A
1-26 アドミッションポリシー（AP）は適切であるか。	APが適切であるか議論する。また法令やガイドラインの改正等があった場合には適切に対応する。	入学試験委員会・専攻科委員会で審議し、適切であると判断した。 機能強化事業の展開に合わせ改善することとした。	A

S：特に優れている A：良好である B：概ね良好である C：不十分である

点検項目	実施計画	実施状況	評価
基準2 教育組織及び教員・教育支援者等			
【教育に係る組織の体制】			
2-1 学科・専攻の構成は適切であるか。	学科・専攻科の構成が適切であるか審議する。	高度化推進に向けて改組について検討した。	S
2-2 教育活動を展開するための体制が適切に機能しているか。	教育活動を展開するための体制が適切に機能しているか審議する。 教育活動を展開するための各種委員会を適切に開催する。	各種委員会、学科会議を定期的に開催している。	A
【教員】			
2-3 一般科目の教員配置は適切であるか。	一般科目の教員配置が適切であるか検証する。	適切であると判断した。	A
2-4 専門科目の教員配置は適切であるか。	専門科目の教員配置が適切であるか検証する。	適切であると判断した。	A
2-5 教員の採用は公募により適切に行われているか。	公募により教員の採用を行う。	公募により採用を行っている。	A
2-6 教員の昇任は適切に行われているか。	教員の昇任を適切に行う。	人事委員会での審議を経て、4件の昇任人事を行った。	A
2-7 教員の評価は適切に行われているか。	教員の評価を実施する。	自己評価、校長ヒアリングで適切に実施した。	A
2-8 教育方法に関するFDが実施されているか。	教育方法に関するFDを実施する。	4月、10月に教員FDを実施した。	A
2-9 FDが教育の改善に結び付いているか。	FD後にアンケートを実施し、教育が改善されているか確認する。	10月にアントレプレナーシップ教育の展開に関する教員FDを実施し、参加者のアンケート結果からアントレプレナーシップ教育に関する理解が深まった教員がおよそ93%であった。	A
【教育支援者】			
2-10 教育支援者（事務職員、技術職員、図書館職員）の配置は適切であるか。	教育支援者の配置が適切であるか検証する。	業務状況に応じて、適宜見直しを行った。	A
2-11 教育支援者に対するSDが実施されているか。	学内SDを実施する。また、高専機構等主催のSDに参加する。	事務職員については、Eメール作成や誤送信防止に関する説明・啓発を行い、12月に財務会計グループにおいて業務別研修を実施した。また、国や高専機構主催の研修に職員を参加させた。技術職員対象SDは、3月に実施した。	A

S：特に優れている A：良好である B：概ね良好である C：不十分である

点検項目	実施計画	実施状況	評価
<b>基準3 学習環境及び学生支援等</b>			
<b>【施設・設備】</b>			
3-1 校地面積は適切であるか。	校地面積が適切であるか検証する。	設置基準に定められた面積を満たしており、必要な施設を有している。	A
3-2 校舎面積は適切であるか。	校舎面積が適切であるか検証する。	設置基準に定められた面積を満たしており、必要な施設を有している。	A
3-3 実習工場は適切に整備されているか。	機械工作実習に必要な設備・機材を整備・準備する。	実習工場にある溶接機8台のうち、老朽化し修理対応できない2台分の更新を行った。溶接不良の発生が低減され学生の早い上達が見込まれると同時に、人体への電撃の危険度が軽減され、教育環境が改善された。	S
3-4 各実験室は適切に整備されているか。	実験に必要な設備・機材を整備・準備する。	適切であると判断した。	A
3-5 各施設・設備の安全衛生管理体制は機能しているか。	定期的に安全衛生委員会を開催する。	月1回安全衛生委員会を開催している。	A
3-6 バリアフリー化への配慮を行っているか。	バリアフリー化への配慮を継続する。	現在必要とされている範囲は整備済みである。	A
3-7 施設・設備に関する満足度を調査しているか。	施設・設備に対する満足度を調査する。	施設・設備に関する質問項目を拡充した宇部高専の教育に関するアンケートを実施した。	A
3-8 施設・設備の満足度を向上するための改善を行っているか。	満足度を向上するための改善を行う。	経年劣化箇所や学生の要望があった箇所等の改善を行った。	A
<b>【ICT環境】</b>			
3-9 ICT環境の整備は適切であるか。	ICT環境を適切に整備する。	適切であると判断した。	A
3-10 ICT環境のセキュリティ管理体制は適切に機能しているか。	情報セキュリティ管理を徹底する。	状況に応じて適宜、会議を開催し、セキュリティについて検討をおこない、運用している。	S
3-11 ICT環境は有効に活用されているか。	ICT環境を有効利用する。	有効利用されていると判断した。	A
3-12 ICT環境に対する満足度を調査しているか。	ICT環境の満足度調査を実施する。	授業改善アンケートや卒業時アンケートを参照した。	A
<b>【図書館】</b>			
3-13 図書、学術雑誌、視聴覚資料等が系統的に収集・整理されているか。	図書等を適切に管理するとともに、新規図書等を適切に収集する。	系統的に収集、整理されていると判断した。	A
3-14 図書、学術雑誌、視聴覚資料等は有効に活用されているか。	図書等の利用状況を調査する。	有効に活用されていると判断した。	A
3-15 図書、学術雑誌、視聴覚資料等が有効に活用されるための取り組みを行っているか。	図書等の利用を促進する取り組みを実施する。	図書館だよりの発行・配布など、各種の取り組みを実施している。	A

S：特に優れている A：良好である B：概ね良好である C：不十分である

点検項目	実施計画	実施状況	評価
<b>【ガイダンス】</b>			
3-16 準学士課程の学生に対する教育上のガイダンスを実施しているか。 ※実施体制の確認を含む	準学士課程の学生に対する教育上のガイダンスを実施する。	新入生オリエンテーションを適切に実施した。	A
3-17 専攻科の学生に対する教育上のガイダンスを実施しているか。 ※実施体制の確認を含む	専攻科の学生に対する教育上のガイダンスを実施する。	1学期及び3学期開始時にオリエンテーションを実施した。	A
3-18 編入生に対する教育上のガイダンスを実施しているか。 ※実施体制の確認を含む	編入生に対する教育上のガイダンスを実施する。	編入生オリエンテーションを適切に実施した。	A
3-19 留学生に対する教育上のガイダンスを実施しているか。 ※実施体制の確認を含む	留学生に対する教育上のガイダンスを実施する。	留学生オリエンテーションを適切に実施した。	A
3-20 障害のある学生に対する教育上のガイダンスを実施しているか。 ※実施体制の確認を含む	障害のある学生に対する教育上のガイダンスを実施する。	障害のある学生に対して面談を実施するとともに、入学時に提出する健康調査票に記載のあった学生や出身中学校から障害に関して連絡のあった学生にも修学支援に関する説明を行った。必要に応じて、保護者に対しても面談を実施した。 また、オープンキャンパスではプライバシーに配慮した特別ブースを設けて参加者の個別相談に対応し、入学後の修学支援実施の流れを説明した。	S
3-21 社会人学生に対する教育上のガイダンスを実施しているか。 ※実施体制の確認を含む	社会人学生に対する教育上のガイダンスを実施する。	実施体制は整備している。 今年度は該当者なしであった。	A
<b>【学生のニーズ把握・支援】</b>			
3-22 担任制・指導教員制は有効に機能しているか。	本科においては、担任指導、担任情報共有会を実施する。 専攻科においては、指導教員マニュアルを配付し、指導教員による指導を行う。	担任のしおりの配布及び担任情報共有会を4回実施した。 指導教員マニュアルをサイボウズに掲載している。 専攻科では、希望者対象の指導教員に対する説明会を実施した。	A
3-23 オフィスアワーは有効に機能しているか。	オフィスアワーを実施し、利用者数を把握する。	前期及び後期において、全教員が週2回オフィスアワーを設定し実施した。オフィスアワーの利用件数は3,000件強であった。	A
3-24 保健室は有効に機能しているか。	利用者数を把握する。	保健室利用者は延べ826人であった。	A
3-25 相談室は有効に機能しているか。	利用者数を把握する。	スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーが対応した学生・保護者からの相談件数は402件であった。 他に学生が教職員に相談するケースは2,961件あった。 学生相談室では「学生相談室リスト」を作成して利用状況を把握し、情報共有を図り、教職員と連携して学生の支援や見守りを行った。	A
3-26 キャリア相談室・資料室は有効に機能しているか。	利用者数を把握する。	教育コーディネーター1名が対応した学生のキャリア相談件数（4～3月）は117件（実数55名）であった。他に卒業生がUターンシステムを利用し相談するケースもある。キャリア支援室の利用状況を数値化し各学科へ随時発信したり、採用試験に係る資料提供を適時・適切に行う等、コロナ禍を経て大きく変化する就活状況への対応を進めたことにより早期の採用内定獲得に寄与することができた。	S

S：特に優れている A：良好である B：概ね良好である C：不十分である

点検項目	実施計画	実施状況	評価
3-27 (障害学生) 修学支援は有効に機能しているか。	ウォッチリスト等により対象学生を把握するとともに支援状況を適宜学科に報告する。	修学支援室において対象学生のウォッチリストを作成するとともに、個人情報に留意しながら当該リストを活用し、運営委員会や前期・後期始めの各学科会議訪問等で情報共有を図り、学内で連携して学生の支援や見守りを行った。今年度からはリストをOneDriveにて学生支援センター員や学生課と共有し、支援体制を強化した。 また、組織的な修学支援、連携体制を構築するため、学生支援のプロセスに関する申し合わせを整備し、支援のプロセスを明確化した。	S
3-28 学生への経済的支援(授業料免除、各種奨学金)は有効に機能しているか。	実績を把握する。	71名が授業料免除を受け、22名が民間奨学金を利用した。	A
3-29 資格・検定試験支援制度は有効に機能しているか。	実績を把握する。	資格取得奨励制度利用者数は151名であった。	A
3-30 海外への留学支援は有効に機能しているか。	実績を把握する。	留学交流室において、海外研修プログラムを策定し、募集を行った。(プログラム数：夏季10件、研修参加者：55名、春季3件、研修参加者17人) 海外研修実施にあたり、オリエンテーション、報告会を開催した。	A
3-31 学生会あるいは学生との懇談会を実施しているか。	学生会との懇談会を実施する。	1月20日に学生会リーダー研修を実施した。	A
<b>【キャリア指導・支援】</b>			
3-32 進路指導ガイダンスを実施しているか。	ジェネリックスキルにおいてキャリア教育を実施する。	1～3年生第1学期のホームルームにてキャリアカルテを実施した。3年生第3学期のジェネリックスキルⅢにおいてキャリア教育として、10月30日に「職務適性テスト」、11月6日に「労働法制」、11月13日に「履歴書を書く」を実施した。	A
3-33 進学・就職に関する説明会を実施しているか。	進学・就職に関する説明会を実施する。就職・進学活動に関するガイドブックを配布する。	合同企業研究会を12月13日に実施した。4年生に対して「就職・進学活動のメンタルヘルス講習会」を1月15日に実施した。 インターンシップの定義変更に伴う今後の学内対応について、教務部と連携して検討するとともに、勉強会への参加、近隣大学等との情報交換により得た知見を整理して11月21日開催の教員FDにて展開した。	A
<b>【課外活動】</b>			
3-34 課外活動に対する支援は有効に機能しているか。	学生会を通じた活動費の配分や課外活動指導員の採用などの支援を行う。	各部活の課外活動指導員の配置要望を調査し、27名の課外活動指導員を配置した。(32クラブ中23クラブ)	A
3-35 課外活動に対する責任体制は適切であるか。	責任体制を明確にするとともに、教員と学生に周知する。	課外活動に係る活動方針(申合せ)を見直し、「課外活動の在り方に関する方針」及び「課外活動に係る活動方針」を制定し、周知を実施した。ホームページで公開している。	A
3-36 課外活動に対する責任体制は有効に機能しているか。	責任体制が有効に機能しているか検証する。	課外活動に係る活動方針に基づき、課外活動の安全管理を行った。 クラブ指導教員会議を3回開催し、安全管理体制の見直し及び周知を実施した。 学生を対象とした救命講習会を開催し、救命処置・応急手当の方法を講習した。	A

S：特に優れている A：良好である B：概ね良好である C：不十分である

点検項目	実施計画	実施状況	評価
<b>【学生寮】</b>			
3-37 学生寮は生活の場として有効に機能しているか。	生活の場として有効に機能しているか検証する。	寮生会の学生と協力し、安全面、衛生面に配慮した運営を行っている。配慮が必要な学生等に対し、担任等と情報を共有し、面談を行うなど、細やかに対応している。 給食に関して、寮生にアンケートを実施し、食堂業者と話し合いを実施するなど、学生の満足度を高めるよう努めた。	A
3-38 学生寮は勉学の場として有効に機能しているか。	勉学の場として有効に機能しているか検証する。	週に1回程度、低学年生を対象とした勉強会を実施した。全19回行い、1回当たり90分で寮生7～9名が講師として指導した。	S
3-39 学生寮の管理・運営体制は有効に機能しているか。	管理・運営体制が有効に機能しているか検証する。	ほぼ毎週、寮務部打合せを行い、管理・運営について審議するとともに情報共有を行った。配慮が必要な学生等については、担任や所属学科長、学生相談室長等と必要に応じて、情報を共有し、協力して面談等を行い対応した。	A
<b>【いじめ防止・対策】</b>			
3-40 いじめ防止・対策のための体制が整備されているか。	いじめ対策委員会の規則及び体制が適切か確認する。	第1回いじめ対策委員会で委員会の役割及びいじめ防止プログラムについて委員間における認識を共有した。学生間トラブル事案発生時には学生支援センターと連携して情報の把握を行い、委員会には学級担任が陪席して学校としての当該学生への関わり方をその都度審議している。 第7回いじめ対策委員会でいじめ基本計画、早期発見・事案対処マニュアルを検証し問題がないことを確認した。また、いじめ防止プログラムを検証し、次年度に向けてより効果的なスケジュールに改善して体制の充実を図った。	S
3-41 いじめ防止・対策の組織が有効に機能しているか。	いじめ対策委員会を定期的に開催する。	いじめ防止プログラムに基づき年6回の計画を立て、定期的に委員会を開催した。 学生間トラブル事案発生時には速やかに委員会を開催して審議及び情報共有を行っている。	A

S：特に優れている A：良好である B：概ね良好である C：不十分である

点検項目	実施計画	実施状況	評価
基準4 財務基盤及び管理運営			
【財務】			
4-1 貸借対照表等による財務状態は適切であるか。	適切な会計処理を実施する。	平時より適切な会計処理を実施し、月次決算等で確認している。	A
4-2 運営費交付金、授業料、入学料、検定料等の経常的な収入を確保しているか。	適切な会計処理を実施する。	恒常的な収入を確保し、月次決算等で確認している。	A
4-3 収支状況が支出超過となっていないか。	適切な会計処理を実施する。	支出超過とならないよう月次決算等で確認している。	A
4-4 収支に係る方針、計画が適切なプロセスで決定されているか。	適切なプロセスで予算を決定する。	5月及び10月に予算委員会を開催し、戦略的かつ計画的な予算管理を目的とした配分を行った。 また、光熱水料の高騰などによる厳しい財政状況をふまえ、今年度は、現行予算方針の抜本的な見直しを図るべく、中堅・若手教職員で構成するWGを設置し、今後の予算方針、増収及び支出削減を検討した。WGからの答申をもとに、予算委員会で新たな予算方針を検討している。	S
4-5 収支に係る方針、計画は適切であるか。	予算計画が適切であるか検証する。	方針に基づいて予算計画を策定し、予算委員会で審議・決定した。	A
4-6 収支に係る方針、計画は教職員に明示されているか。	予算計画を教職員に明示する。	運営委員会で報告後、サイボウズにて明示している。	A
4-7 収支に係る方針、計画と資源配分が整合しているか。	予算と資源配分の整合性を検証する。	10月の予算委員会において、収入及び追加予算等の状況に応じた配分を決定した。	A
4-8 財務状況が法令に基づき適切に作成・公表されているか。	財務状況を作成し、公表する。	本校の財務状況を要覧にて公表している。なお、法人の財務諸表を高専機構本部にて作成し公表している。	A
4-9 財務に係る監査が適切に実施されているか。	適切な監査を実施する。	内部監査を実施し、適正に処理されていることを確認した。	A
【管理運営】			
4-10 管理運営体制が有効に機能しているか。	管理運営体制が有効に機能しているか検証する。	各種委員会を整備し、定期的または必要に応じて開催している。	A
4-11 管理運営に係る委員会が有効に機能しているか。	管理運営に係る委員会が有効に機能しているか検証する。	各種委員会を定期的または必要に応じて開催し、所掌事項を審議・報告している。	A
4-12 校長、主事等の役割分担は適切であるか。	校長、主事等の役割分担が適切であるか検証する。	適宜校務分掌の見直しを行っている。	A
4-13 教員と事務職員の役割分担は適切であるか。	教員と事務職員の役割分担が適切であるか検証する。	学則や規則等に定めており、必要に応じて見直しを行っている。	A
4-14 教員と事務職員との連携体制が有効に機能しているか。	教員と事務職員の連携体制が有効に機能しているか検証する。	教員と事務職員で構成する委員会を整備し、所掌事項を審議・報告している。	A

S：特に優れている A：良好である B：概ね良好である C：不十分である

点検項目	実施計画	実施状況	評価
<b>【危機管理】</b>			
4-15 危機管理体制は有効に機能しているか。	危機管理体制が有効に機能しているか検証する。	リスク管理室会議を11回開催し、適宜機構本部とも連携して危機対応を行った。	A
4-16 危機管理マニュアルは適切であるか。	危機管理マニュアルの見直しを行う。	マニュアルを見直し、事務組織改編に伴う名称変更及び安否確認システムの利用例等を追加した。	A
4-17 危機に備えた訓練を実施しているか。	避難訓練を実施する。	11月に防火避難訓練を実施した。	A
<b>【外部資金の活用】</b>			
4-18 外部資金を獲得する取り組みを行っているか。	外部資金獲得のための講演会や説明会を実施する。	科研費説明会、申請書のブラッシュアップを実施した。	A
4-19 公的資金が適切に管理されているか。	公的資金を適切に管理する。	日常監査及び内部監査により、公的資金が規則等に基づき適切に管理されていることを確認した。	A
4-20 公的資金を適切に使用するための取り組みが行われているか。	公的資金の不正使用防止のための研修を実施する。	全教職員を対象とした公的資金の適正使用に関する研修を3月に実施し、理解度チェックで誤認のあった教職員に、個別に対応を行うなど、不正使用及び不適正経理の防止に努めた。	A
<b>【外部教育資源の活用】</b>			
4-21 外部の教育資源を有効に活用しているか。	外部教育資源を有効活用する。	ジェネリックスキル等の授業に企業等の民間で活躍する人材を講師に招聘し実施した。 外部講師による講習会（いじめ防止・薬物乱用防止）を実施した。 各部署の要望等をふまえ、外部機関との協定等を締結・更新し、交流を行っている。	A
<b>【スタッフ・ディベロップメント】</b>			
4-22 SDが適切に実施されているか。	学内SDを実施する。また、機構主催のSDに職員を派遣する。	事務連絡会議において、Eメール作成や誤送信防止に関する説明・啓発を行ったほか、12月に財務会計グループにおいて業務別研修を実施した。また、政府関係法人会計事務職員研修等、国や他機関、高専機構が主催する研修に職員を参加させた。	A
<b>【情報公開】</b>			
4-23 法令に従い、学校の目的及び3つの方針が公表されているか。	学校の目的及び3つの方針をHPにより公開する。	要覧、HP等にて公開している。	A
4-24 法令に従い、教育研究上の基本組織が公表されているか。	組織図をHPにより公開する。	要覧、HP等にて公開している。	A
4-25 法令に従い、教員組織、教員の数並びに教員が保有する学位及び業績が公表されているか。	教員組織、教員の数、学位、業績をHPにより公表する。	要覧、HP等にて公開している。	A
4-26 法令に従い、入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況が公表されているか。	各種データを学校要覧に記載するとともにHPにより公開する。	要覧、HP等にて公開している。	A

S：特に優れている A：良好である B：概ね良好である C：不十分である

点検項目	実施計画	実施状況	評価
4-27 法令に従い、授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画が公表されているか。	シラバス一覧、シラバス及び行事予定表をHPにより公開する。	HPにて公開している。	A
4-28 法令に従い、学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準が公表されているか。	成績評価基準、卒業・修了認定基準をHP（学則・教務規則）により公開する。	HPにて公開している。	A
4-29 法令に従い、校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境が公表されているか。	学校の施設・設備及び教育研究環境をHP（学校要覧）により公開する。	要覧、HP等にて公開している。	A
4-30 法令に従い、授業料、入学料その他の高等専門学校が徴収する費用が公表されているか。	授業料、入学料その他の費用をHP（学校案内）により公開する。	学校案内、HP等にて公開している。	A
4-31 法令に従い、高等専門学校が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援が公表されているか。	修学支援室、キャリア支援室、学生相談室及び保健室等の支援体制をHP（学校要覧）により公開する。	要覧、HP等にて公開している。	A
4-32 学校の目的及び3つの方針が教職員、学生に周知されているか。	学校の目的及び3つの方針を学内関係者に周知するとともにHPにより公開する。	HP等にて公開し周知している。	A

S：特に優れている A：良好である B：概ね良好である C：不十分である

点検項目	実施計画	実施状況	評価
基準5 準学士課程の教育課程・教育方法			
【教育課程の編成・内容・方法】			
5-1	カリキュラムポリシーに照らし、授業科目の配置は適切であるか。	授業科目の配置が適切であるか議論する。	数理・データサイエンス・AI（応用基礎）申請のためにカリキュラムポリシーの点検を行った。
5-2	一般教育は充実しているか。	一般教育が充実しているか議論する。	学科会議で議論した。
5-3	進級に関する規定は適切であるか。	進級に関する規定が適切であるか議論する。	教務部打合せで検討し、適切であることを確認した。
5-4	授業を行う期間は35週が確保されているか。	35週を確保する。	行事予定表を作成する際に35週を確保している。
5-5	特別活動は90単位時間以上確保されているか。	90単位時間以上確保する。	ホームルーム実施計画表を作成する際に確認、90単位時間以上を確保した。
5-6	学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等を踏まえた教育課程における配慮がなされているか。	学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請を踏まえ、教育課程における配慮を行う。	アントレプレナーシップ教育の導入を推進し、プロジェクト学習に7つアントレ課題を設定し実践した。さらに、宇部市高校生ビジネスプランコンテストに3グループがエントリーし、最優秀賞と特別賞を受賞した。10月17日に教員向けアントレプレナーシップの教育FDを開催し、教員の理解深めた。次年度以降、アントレプレナーシップ教育を拡充する計画を策定している。グローバルエンジニア育成事業における英語による授業を実施した。地域教育において小中学校への出前授業、地域課題解決の取り組みを行った。
5-7	創造力を育む教育方法の工夫を行っているか。	創造力を育む教育方法の工夫を行う。	プロジェクト学習を実施することで創造力を育てている。
5-8	実践力を育む教育方法の工夫を行っているか。	実践力を育む教育方法の工夫を行う。	リサーチワークショップ、卒業研究を実施することで実践力を育てている。
5-9	数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）の点検・改善活動を行っているか。	数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）の点検・改善活動を行う。	1, 2年生に理解度アンケートを実施して点検・改善活動を行った。
【授業形態・学習指導法】			
5-10	カリキュラムポリシーに照らして講義、演習、実験・実習が適切に配置されているか。	講義、演習、実験・実習の配置について議論する。審議内容を議事録に残す。	各学科で議論した。
5-11	教育内容に応じて学習指導上の工夫がなされているか。	学習指導上の工夫を行う。実施内容は職務上の活動に関する自己申告書により申告する。	授業改善アンケート 兼 授業改善計画書の結果を改善につなげている。
5-12	シラバスが適切に作成および改善されているか。	シラバス作成マニュアルを配布し、シラバスを適切に作成する。シラバスの改善状況を調査し、成績資料点検表に記録する。	シラバス作成マニュアルを配布し、シラバスを適切に作成するよう依頼した。各学科で点検した。
5-13	学生はシラバスを有効に活用しているか。	学生のシラバス活用状況を調査する。初回授業ではシラバスを配布する。	授業改善アンケート集計結果により調査している。

S：特に優れている A：良好である B：概ね良好である C：不十分である

点検項目	実施計画	実施状況	評価
5-14 教員はシラバスを有効に活用しているか。	職務上の活動に関する自己申告書により、教員のシラバス活用状況を調査する。	授業改善アンケート 兼 授業改善計画書の結果を改善につなげている。	A
5-15 学修単位科目における履修時間の実質化のための取り組みが適切に行われているか。	学修単位科目における履修時間の実質化のための取り組みを行う。初回授業で事前・事後学習課題一覧を学生に配布する。	授業開始時に事前・事後学習課題を学生に説明して、その一覧を成績資料ファイルに綴ることとしている。	A
5-16 学修単位科目における学生の授業外学習時間を把握しているか。	学修単位科目における授業外学習時間を把握する。	授業改善アンケート集計結果で把握した。	A
<b>【成績評価・単位認定・卒業認定】</b>			
5-17 成績評価に関する基準に基づき、適切に成績評価が行われているか。	適切に成績評価を行う。各学科内で点検し、議事録に記載する。	各学科で点検し、適切であると判断した。	A
5-18 単位認定に関する基準に基づき、適切に単位認定が行われているか。	適切に単位認定を行う。	各学科で点検し、適切であると判断した。	A
5-19 成績評価・単位認定に関する基準に関する学生の認知状況を把握しているか。	成績評価基準及び単位認定基準に関する学生の認知状況を把握する。	アンケートを実施した。	A
5-20 試験後に答案を返却し、模範解答を示しているか。	試験後に答案を返却し、模範解答を示す。	試験返却時間割を作成して、実施している。	A
5-21 試験のレベルが適切であるかチェックがなされているか。	試験のレベルが適切であるか点検する。点検結果は学科会議の議事録に記載する。	各学科で点検した。	A
5-22 複数年度にわたり同一試験問題が繰り返されていないかのチェックがなされているか。	複数年度にわたり同一試験問題が繰り返されていないか点検する。点検結果は学科会議の議事録に記載する。	各学科で点検した。	A
5-23 卒業認定基準を学生に周知しているか。	卒業認定基準を学生に周知する。	入学時に配布する学生便覧および学校HPに教務規則を掲載することで周知している。	A
5-24 卒業認定基準について、学生の認知状況を把握する取り組みがなされているか。	卒業認定基準の周知状況をアンケートにより調査する。	アンケートで調査している	A

S：特に優れている A：良好である B：概ね良好である C：不十分である

点検項目	実施計画	実施状況	評価
基準 6 準学士課程の学生の受け入れ			
【準学士課程の学生の受け入れ】			
6-1 アドミッションポリシーに沿った学力選抜試験が実施されているか。	APに沿った学力選抜試験を実施する。	APに沿った学力選抜試験を実施した。	A
6-2 アドミッションポリシーに沿った推薦選抜試験が実施されているか。	APに沿った推薦選抜試験を実施する。	APに沿った推薦選抜試験を実施した。	A
6-3 アドミッションポリシーに沿った帰国生徒選抜試験が実施されているか。	APに沿った帰国生徒選抜試験を実施する。	APに沿った帰国生徒選抜試験を実施した。	A
6-4 入学した学生がアドミッションポリシーに沿っているかの検証がなされているか。	入学生がAPに沿っているか検証する。特に、推薦選抜試験による入学者に対しては、採点基準が適切であるか分析する。	第5回、第6回入学試験委員会において、令和4年度に実施した活動記録の評価と入学後の成績の相関分析の結果を基に、活動記録による評価の在り方を検討した。	A
6-5 検証した結果が改善に役立てられているか。	検証結果をもとに次年度の実施計画における改善計画を策定する。	推薦入試合格者の入学後の成績分析及び推薦不合格者の学力入試合格率を分析し、令和6年度実施推薦入試の枠を4割から5割に増員することを入学試験委員会で決定した。	A
6-6 入学定員に対し、入学者数は適切であるか。	入学定員に対する入学者数を調査する。	各学科の令和5年度入学者数は、定員40名に対して、40～44名であり、適切であると判断した。	A
6-7 入学定員に対し、入学者数が大幅に不足または超過した場合には、改善の取り組みがなされているか。	入学定員に対する入学者数に大きな過不足があった場合には、次年度の実施計画における改善計画を策定する。	該当しない。	-

S：特に優れている A：良好である B：概ね良好である C：不十分である

点検項目	実施計画	実施状況	評価
基準7 準学士課程の学習・教育の成果			
【準学士課程の学習・教育の成果】			
7-1 成績評価・卒業認定の結果から学習・教育の成果が認められるか。	卒業及び進級認定会議を実施する。	卒業認定会議及び進級認定会議を実施した。	A
7-2 卒業時の意見聴取の結果から学習・教育の成果が認められるか。	卒業時に学生へのアンケート調査を行う。	卒業時に学生へのアンケート調査を行った。 卒業時アンケートより、成果が認められると判断した。（回答者のほぼ全員が学習・教育到達目標に掲げる能力が身についたと答えている。）	A
7-3 卒業生からの意見聴取の結果から学習・教育の成果が認められるか。	令和4年度実施の本校の教育に関するアンケートの結果を基に教育課程の改善を検討する。	本校の教育に関するアンケートの回答結果も踏まえて、教育課程検討WGで協議を重ね、機能強化事業の展開に合わせて改善するように計画した。	A
7-4 就職先からの意見聴取の結果から学習・教育の成果が認められるか。	令和4年度実施の本校の教育に関するアンケートの結果を基に教育課程の改善を検討する。	本校の教育に関するアンケートの回答結果も踏まえて、教育課程検討WGで協議を重ね、機能強化事業の展開に合わせて改善するように計画した。	A
7-5 進学先からの意見聴取の結果から学習・教育の成果が認められるか。	令和4年度実施の本校の教育に関するアンケートの結果を基に教育課程の改善を検討する。	本校の教育に関するアンケートの回答結果も踏まえて、教育課程検討WGで協議を重ね、機能強化事業の展開に合わせて改善するように計画した。	A
7-6 就職率から学習・教育の成果が認められるか。	就職率を算出する。	就職率は100.0%となっており、学習・教育の成果が認められる。	A
7-7 進学率から学習・教育の成果が認められるか。	進学率を算出する。	進学率は100.0%となっており、学習・教育の成果が認められる。	A
7-8 就職先、進学先は学科が養成しようとする人材像に適したものとなっているか。	各学科のDPと就職先及び進学先との整合性について検証する。検証結果は学科会議議事録に記載する。	学科が養成しようとする人材像に適したものとなっていることを確認した。	A

S：特に優れている A：良好である B：概ね良好である C：不十分である

点検項目	実施計画	実施状況	評価	
<b>基準 8 専攻科課程の教育活動</b>				
<b>【教育課程の編成・内容・方法】</b>				
8-1	カリキュラムポリシーに照らし、適切な授業配置となっているか。	授業科目の配置が適切であるか各専攻に審議を依頼する。	適切であると判断した。	A
8-2	専攻科の教育課程は準学士課程の教育と連携し、発展した構成となっているか。	専攻科の教育課程が準学士課程の教育と連携し、発展した構成となっているか各専攻に審議を依頼する。	準学士課程からの連携・発展を盛り込んだ新カリキュラムの運用を今年度から開始した。 第13回専攻科委員会において1年生に対して行ったアンケート結果を各専攻に示した。	S
<b>【授業形態・学習指導法】</b>				
8-3	カリキュラムポリシーに照らして講義、演習、実験・実習が適切に配置されているか。	講義、演習、実験・実習の配置が適切であるか各専攻に審議を依頼する。	適切であると判断した。	A
8-4	教育内容に応じて学習指導上の工夫がなされているか。	学習指導上の工夫を行う。実施事項は職務上の活動に関する自己申告書に記載する。また、各専攻に学習指導上の工夫に関するアンケートを実施し、専攻科委員会でまとめる。	専攻科授業担当教員に学習指導上の工夫に関するアンケートを実施した。	A
8-5	学生への教養教育や研究指導が適切に行なわれているか。	教養教育や研究指導を適切に行う。	適切に行われていると判断した。	A
8-6	シラバスが適切に作成および改善されているか。	シラバス作成マニュアルを配布し、シラバスを適切に作成する。シラバスの改善状況を調査する。	シラバス作成依頼時にカリキュラム・ポリシーに基づき作成されているかを学科に確認依頼した。 各学科で、点検した。	A
8-7	学生はシラバスを有効に活用しているか。	学生のシラバス活用状況を調査する。初回授業ではシラバスを配布する。	授業改善アンケート集計結果により調査した。	A
8-8	教員はシラバスを有効に活用しているか。	職務上の活動に関する自己申告書により、教員のシラバス活用状況を調査する。	授業改善アンケート 兼 授業改善計画書の結果を改善につなげている。	A
8-9	学修単位科目における履修時間の実質化のための取り組みが適切に行われているか。	学修単位科目における履修時間の実質化のための取り組みを行う。初回授業で事前・事後学習課題一覧を学生に配布する。	授業開始時に事前・事後学習課題を学生に説明して、その一覧を成績資料ファイルに綴じることとしている。	A
8-10	学修単位科目における学生の授業外学習時間を把握しているか。	学修単位科目における授業外学習時間を把握する。	専攻科1年生に対しアンケートを実施し、学習時間を把握した。	A
<b>【成績評価・単位認定・卒業認定】</b>				
8-11	成績評価に関する基準に基づき、適切に成績評価が行われているか。	適切に成績評価を行う。学科会議にて審議し、会議議事録に記載する。	評価割合をシラバスに記載し、これに基づき評価を行った。 各学科で点検し、適切であると判断した。	A
8-12	単位認定に関する基準に基づき、適切に単位認定が行われているか。	適切に単位認定を行う。	各学科で点検し、適切であると判断した。	A
8-13	成績評価・単位認定に関する基準に関する学生の認知状況を把握しているか。	成績評価基準及び単位認定基準に関する学生の認知状況を把握する。	授業改善アンケートにより実施されていることを確認した。	A

S：特に優れている A：良好である B：概ね良好である C：不十分である

点検項目	実施計画	実施状況	評価
8-14 試験後に答案を返却し、模範解答を示しているか。	試験後に答案を返却し、模範解答を示す。	授業改善アンケートにより実施されていることを確認した。	A
8-15 試験のレベルが適切であるかチェックがなされているか。	試験のレベルが適切であるか点検する。専攻科委員会や学科会議にて審議し、会議議事録に記載する。	各学科で点検した。	A
8-16 複数年度にわたり同一試験問題が繰り返されていないかのチェックがなされているか。	複数年度にわたり同一試験問題が繰り返されていないか点検する。点検結果は学科会議議事録に記載する。	各学科で点検した。	A
8-17 修了認定基準を学生に周知しているか。	修了認定基準を学生に周知する。	オリエンテーションの時に学生に周知している。また、入学時に配布する学生便覧及び学校HPに履修等に関する規則を掲載することで周知している。	A
8-18 修了認定基準について、学生の認知状況を把握する取り組みがなされているか。	修了認定基準に関する学生の認知状況を把握する。	認知状況を把握するためのアンケートを実施した。	A
<b>【専攻科課程の学生の受け入れ】</b>			
8-19 アドミッションポリシーに沿った学力選抜試験が実施されているか。	APに沿った学力選抜試験を実施する。	APに沿った学力選抜試験を実施した。	A
8-20 アドミッションポリシーに沿った推薦選抜試験が実施されているか。	APに沿った推薦選抜試験を実施する。	APに沿った推薦選抜試験を実施した。	A
8-21 アドミッションポリシーに沿った社会人選抜試験が実施されているか。	APに沿った社会人選抜試験を実施する。	志願者なしのため実施していない。	-
8-22 入学した学生がアドミッションポリシーに沿っているかの検証がなされているか。	入学生がAPに沿っているか検証する。	2年生34名全員の修了が認定されたこと、及び全員が希望する進路に進んだことからAPに沿った学生が入学していると判断した。	A
8-23 検証した結果が改善に役立てられているか。	検証結果をもとに次年度の実施計画における改善計画を策定する。	現状ではAPは適切であると判断している。新カリが全適用される次年度から検証を開始する。	A
8-24 入学定員に対し、入学者数は適切であるか。	入学定員に対する入学者数を調査する。	現時点の入学者数は適切であると判断した。	A
8-25 入学定員に対し、入学者数が大幅に不足または超過した場合に、改善の取り組みがなされているか。	入学定員に対する入学者数に大きな過不足があった場合には、次年度の実施計画における改善計画を策定する。	入学定員に対する入学者数に大きな過不足はなかったが、入学者の質担保のため推薦選抜の基準の見直し（改善）を継続して検討している。令和4年度末に変更した推薦選抜試験における出願資格について、令和7年度入試（令和6年度実施）での運用に向けて本校ウェブサイトで公開して志願者に周知した。	A

S：特に優れている A：良好である B：概ね良好である C：不十分である

点検項目	実施計画	実施状況	評価
<b>【専攻科課程の学習・教育の成果】</b>			
8-26 成績評価・修了認定の結果から学習・教育の成果が認められるか。	修了認定会議を実施する。	休学者を除く34名全員が修了認定されており、学習・教育の成果が認められると判断した。	A
8-27 修了時の意見聴取の結果から学習・教育の成果が認められるか。	修了時に学生へのアンケート調査を行う。	修了時アンケートより、成果が認められると判断した。（回答者のほぼ全員が学習・教育到達目標に掲げる能力が身についたと答えている。）	A
8-28 修了生からの意見聴取の結果から学習・教育の成果が認められるか。	令和4年度実施の本校の教育に関するアンケートの結果を基に教育課程の改善を検討する。	本校の教育に関するアンケートの回答結果も踏まえて、教育課程検討WGで協議を重ね、機能強化事業の展開に合わせて改善するように計画した。	A
8-29 就職先からの意見聴取の結果から学習・教育の成果が認められるか。	令和4年度実施の本校の教育に関するアンケートの結果を基に教育課程の改善を検討する。	本校の教育に関するアンケートの回答結果も踏まえて、教育課程検討WGで協議を重ね、機能強化事業の展開に合わせて改善するように計画した。	A
8-30 進学先からの意見聴取の結果から学習・教育の成果が認められるか。	令和4年度実施の本校の教育に関するアンケートの結果を基に教育課程の改善を検討する。	本校の教育に関するアンケートの回答結果も踏まえて、教育課程検討WGで協議を重ね、機能強化事業の展開に合わせて改善するように計画した。	A
8-31 就職率から学習・教育の成果が認められるか。	就職率を算出する。	就職率は100.0%となっており、学習・教育の成果が認められる。	A
8-32 進学率から学習・教育の成果が認められるか。	進学率を算出する。	進学率は100.0%となっており、学習・教育の成果が認められる。	A
8-33 就職先、進学先は学科が養成しようとする人材像に適したものとなっているか。	各専攻のDPと就職先及び進学先との整合性について検証する。	適切であると判断した。	A

S：特に優れている A：良好である B：概ね良好である C：不十分である

点検項目	実施計画	実施状況	評価
<b>基準9 研究活動の状況</b>			
<b>【研究活動の体制】</b>			
9-1 研究活動の目的、方針は適切であるか。	本校の研究活動の目的及び方針が適切であるか審議する。	GEAR5.0への参画及び第4ブロック研究推進ネットワーク等の活動を実施した。	A
9-2 研究活動の目的を達成するための体制は有効に機能しているか。	研究活動の目的を達成するための方策等を委員会及び推進室会議において審議する。	有効に機能していると判断した。	A
<b>【研究活動の状況】</b>			
9-3 研究活動が十分に行われているか。	研究活動の状況を把握する。	研究活動は十分に行われており、地域共同テクノセンターNews & Reportにまとめられている。	A
<b>【研究活動の成果】</b>			
9-4 目的、方針に沿った研究活動の成果が得られているか。	本校の目的に沿った研究成果であるか確認する。また、成果は地域共同テクノセンターNews & Reportsに集約し、公表する。	研究活動は本校の目的・方針に沿っていると判断する。また、それらの成果を地域共同テクノセンターNews & Reportに集約され、公表している。	A
<b>基準10 地域貢献活動等の状況</b>			
<b>【地域貢献活動の体制】</b>			
10-1 地域貢献活動の目的、方針は適切であるか。	地域貢献活動の目的及び方針が適切であるか審議する。	適切であると判断した。	A
10-2 地域貢献活動の目的を達成するための体制は有効に機能しているか。	地域貢献活動の目的を達成するための方策等を委員会及び推進室会議において審議する。	有効に機能していると判断した。	A
<b>【地域貢献活動の状況】</b>			
10-3 地域貢献活動は十分に行われているか。	地域貢献活動の状況を把握する。	U-16プロコン山口大会、及びそれに伴う事前講習会を実施し、参加者（34名→50名）、及び協賛企業（9社→21社）が増加した。 テクノカフェの実施回数（1回→2回）を増やした。	S
<b>【地域貢献活動の成果】</b>			
10-4 目的、方針に沿った地域貢献活動の成果が得られているか。	本校の目的に沿った地域貢献活動の成果であるか確認する。また、成果は地域共同テクノセンターNews & Reportsに集約し、公表する。	地域貢献活動は本校の目的・方針に沿っていると判断する。また、それらの成果を地域共同テクノセンターNews & Reportに集約され、公表している。	A